

希望を灯し、想いをつなげる

白鳥地区在住 織田英嗣さん

12月に東京オリンピックの県内の聖火ランナーが発表され、町内で唯一選ばれた織田英嗣さん。今回は、織田さんに聖火ランナーへの想いを伺いました。



だめで元々で応募してみる

織田さんは東京オリンピックの聖火ランナーの公募を見かけ「応募の要件に当てはまっている気がして、だめで元々だと思い、申し込みをしました」と話します。

県から聖火ランナーの候補に選ばれたと連絡がきたときは「びっくりしました」と振り返ります。その後、オリンピック委員会から正式に聖火ランナー決定の連絡がありました。

がんをきっかけに変わった生き方

応募の要件は、家族や仲間などお互い支え合って、あきらめずにどんな困難にも立ち向かう人、様々な人との違いを認め合いながら新たなものに取り組み人、ランナーとして走ることで、地域の一体感を高め合うことができる人などです。

織田さんは42歳の時に食道がんになり、手術後は人工呼吸器に繋がれました。その後がんを

克服した織田さんは、それまでの仕事一筋の生き方を見直ししました。そしてがん患者でもそうでない人もみんなが互いに認め合い、支え合えるようになりたいと思ひ、がん経験者の会『めぐみの会』を立ち上げたり、東郷町では「東郷を結いの郷に」をスローガンにNPO法人ノーマカフエでまちづくりや食に関する活動などを行ったりしています。

織田さんはそうした活動をエントリースーツに書き、申し込みました。

聖火ランナーへの想い

「聖火ランナーに選ばれたことで、『次につなぐ』ことを今まで以上に強く思うようになりました。今行っている活動をさらに広げ、多くの人と関わり、つなげていきたいです」と聖火ランナーへの想いを話します。

そして「私が聖火ランナーとして走ることで、私と関わった人や私の周りの人がオリンピック

を身近に感じてもらい、お礼をしたいです。また、今までの活動を多くの人に知ってもらい、希望を灯すことができればと思います」と続けます。

走る場所は3月に発表されるそう。「どこを走るのか、誰と聖火をつなぐのか楽しみです」と笑顔で話します。

県内では4月6、7日が聖火ランナーが走る日になっていて、織田さんは6日に走ります。

「当日は楽しんで走り、オリンピックを盛り上げたいです」と意気込む織田さん。

希望を灯し、想いをつなげる織田さんの走りに、注目です。



マラソンに出場するなど、体力づくりも積極的に行う織田さん